

# 日本工学教育協会 第 67 回年次大会 参加報告

技術第 2 班 一条 洋和

## 1. はじめに

令和元年 9 月 4 日(水)から 6 日(金)の期間、日本工学教育協会第 67 回年次大会および工学教育研究講演会が、東北大学川内北キャンパスで開催された。そのうち一部の日程への参加および口頭発表を行ったので報告する。



写真：キャンパス入口

## 2. 参加日程

### ・ 1 日目 (9 月 4 日)

- 9:00 工学教育・システムの個性化・活性化-I
- 10:45 工学教育・システムの個性化・活性化-II
- 12:15 ランチョンセッション  
Math Works Japan
- 13:00 開会式・表彰式
- 14:30 特別講演 I
- 16:50 ポスターセッション

### ・ 2 日目 (9 月 5 日)

- 9:00 高大院連携-I
- 10:45 Society 5.0 時代を担う理工系人材育成に  
関する高専教育の実践と展開-II
- 13:00 企業展示ブース

## 3. 各日程の詳細

### ● 口頭発表セッション

口頭発表は、最大つの会場に分かれ、発表 10 分・質疑 5 分で行われた。この中の「工学教育・システムの個性化・活性化-I」セッションで「多機能実験プラットフォームを用いた電子回路実験」というタイトルで発表を行った。本校 5 年生の電子回路実験において、多機能実験プラットフォーム（信号発生器や波形観測装置などの測定機器が搭載されているボードで、パソコンで制御できる装置）を用いて自動計測実験を行った事例を報告した。学生のレポートについて、自動計測の欠点に関する考察が不十分であったことを報告したところ、聴講者から、間違った結果が出るような実験をあえて準備するのはどうか、という提案をいただいた。今後さらに教材研究を行い、考察するポイントが目立つように工夫していきたい。

### ● 特別講演

高等教育を取り巻く最近の状況、産業界における理工系人材、といったテーマに関する講演を聴講した。今後の社会において、IT 人材、とりわけ AI やビッグデータを活用できる人材が大いに必要とされることが強調された。教材開発を行う上でも IT 要素を積極的に取り入れて検討する必要があると感じた。

## 4. おわりに

工学教育に関して、さまざまな機関での取り組みと工夫について情報を得ることができた。今後の教育研究支援に生かしていきたい。